

## はじめに

この本は Part 1～Part 3 で構成されています。Part 1 では文型の基本を中心に学びます。Part 2 では文の構造のとらえ方と話の流れのつかみ方を学びます。Part 3 ではやや長めの文章を読み、さまざまな問題に挑戦します。

## この本の使い方

Part 1 では、まず例文が与えられ、直後にその例文についての解説があります。簡単に意味がとれる例文でも、それがどの文型になっているのか、修飾関係がどうなっているのかを確認しましょう。また、覚えるべき事柄は右のページに **Point** や **Step up** として整理されていますのでしっかりと覚えましょう。

Part 2 では、下線部和訳や説明問題、空所補充問題などの設問がついた中文が与えられています。問題を解くだけでなく、1つ1つの文の構造がどうなっているのか、話の流れがどうなっているのかを考えながら読みましょう。このとき、頭の中だけで考えるのではなく、自分の手で本文に書き込みをするとよいでしょう。和訳問題や説明問題では、必ず答えをノートに書きましょう。ページをめくると、すべての文が再度掲載されており、その行間には読み方と解き方についての解説があります。右ページの **Point** を参照しながらじっくりと読んでください。もちろん、自分の解答を丁寧にチェックすることも忘れずに。各問題の最後には **語句 Check** と問題によっては **Challenge** が与えられています。**語句 Check** は本問に出てきた重要な語句のテスト、**Challenge** は本問で勉強した重要な内容を問う入試問題などです。各問題の仕上げとして取り組んでください。

Part 3 では、長文問題に挑戦します。Part 1、Part 2 で学んだことを活かしながら英文を読み、答えを出す根拠をはっきりさせて設問に答えましょう。ここでも、自分の手を動かすことが大切です。Part 2 同様、すべての文が再度掲載されており、その行間には読み方と解き方についての解説があります。後に与えられる **Point** や Part 1、Part 2 の **Point** も参照しながらじっくりと読んでください。

**Point 1****S V**

英語の文は **S(主語)** と **V(動詞)** が基本。S は文の主題を示し、日本語の「誰が」や「何が」にあたる。S になれるのは **名詞**。

**Point 2**

**There is[are] S.** 「Sがある、いる」

ここでの is[are] は「ある、いる」という意味。S の名詞が単数なら is、複数なら are を用いる。

●こう読み・こう解く●

Animals often work together in nature. They may work

S V S V  
 文頭の名詞が S Vを中心に構造をとる

together to build nests. They may work together to find food.

[~ために] S V [~ために]

(1) <sup>P1</sup> They may help each other keep clean. (2) <sup>P2</sup> You may have seen

S S V O do S V V  
 文頭の名詞が S Vを中心に構造をとる 文頭の名詞が S Vを中心に構造をとる

each other keep clean を中心に後を読む

S V C  
 keep C [Cのままている]

two cats licking each other clean or two birds caring for their

O doing O doing と O doing を結ぶ O doing

two cats were licking each other clean を中心に後を読む

S V O C  
 lick O C [OをなめてCにする]

two birds were caring for their babies together を中心に後を読む

S V O  
 their babies together  
 care for O [Oを世話する]

babies together.

## Point 1 動詞の語法 help

help O do 「O が～するのを助ける」

S V を中心に後を読む

後にはこの do に対する O や C,  
do を修飾する副詞がくることがある。

## Point 2 動語の語法 see

see O doing 「O が～しているのを見る」

S V を中心に後を読む

後にはこの doing の do に対する O や C,  
do を修飾する副詞がくることがある。

## Point 3 or

A or B 「A または B」

選択

A と B は文法的に対等なもの  
何と何を結んでいるのかチェック！

## Point 抽象から具体へ

英語では抽象→具体, 暗示→明示と話が展開することが多い。訳ができてもどうしたことなのか具体的にイメージできないときは、次に具体的な説明がくるのをまつ。

「動物は共に働く」

具体的にイメージしにくい

→ 「共にすみかを作る」「共に食べ物を見つける」「互いにきれいにし合う」

具体的にどういふことをするのかを説明している

→ 「ネコは互いをなめてきれいにする」「2羽のトリはヒナを共に世話する」

具体的にどんな動物がどういふことをするのかを説明している

what has been proven is that sunshine causes our bodies to

S S V V C S V O to  
 「日光は体にビタミンDを作らせる」  
 問2は①が正解

produce vitamin D, and vitamin D has many benefits.

do S V O  
 「ビタミンDには多くの恩恵がある」  
 「日光を浴びずビタミンDが作られな  
 いとこの恩恵は受けられない」  
 →具体化される

For instance, we know that vitamin D is essential for keeping

例示のマーカ― S V O S V C V  
 ②  
 →完全文  
 ビタミンD  
 の恩恵

our bones healthy and can prevent osteoporosis. It has also

O C is ... と can prevent ... V O 形式S  
 を話す 病名だと考えられる

been claimed that vitamin D dramatically reduces the chances of

V S S V O 同格  
 ② →完全文  
 ビタミンDの恩恵

getting many internal organ cancers. Another recent study

V O S

suggests that diabetes is up to 40 percent less likely in people

V O S V C  
 ② →完全文 病名だと考えられる

who get more sunshine. In short, the benefits of moderate

②代 S V O ^ S  
 diabetes 結論のマーカ―  
 太陽をより < 太陽をより  
 浴びる人 浴びない人 than people  
 who get less  
 sunshine  
 この恩恵には、日光に当たりビタミンDが作られることにより  
 osteoporosis や、内臓のガン、diabetes のリスクが減ること  
 が含まれる。したがって問1は②が正解。

sunshine seem to outweigh the risk of skin cancer.

V O